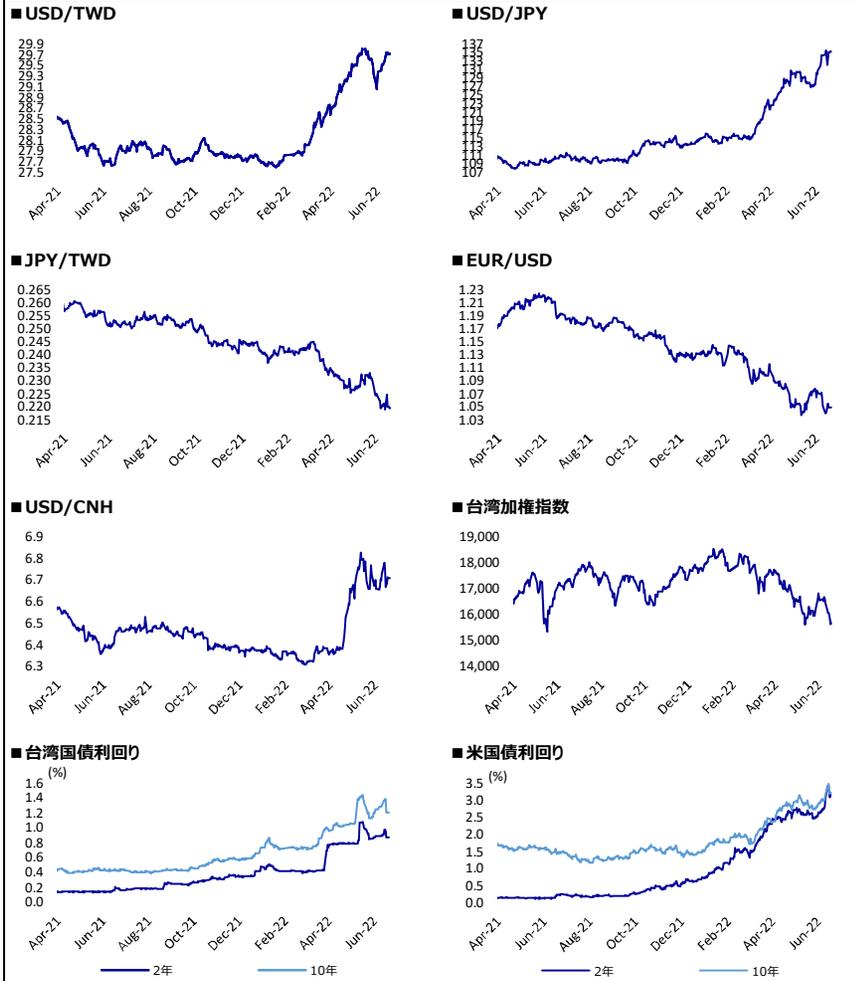


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初6/13は29.660でオープン後、前週の米5月CPIを受けて米金利が上昇するとドル買いが優勢となり29.75付近まで上昇したが、輸出企業のドル売りが入り、上値が押さえられた。6/14も米CPIの余波が続く、米金利上昇・株安の流れを受けて一時29.802まで上昇。しかし、輸出企業のドル売りと、台湾株が下げ止まり台湾ドルが買い戻されると29.66付近まで下落した。6/15はFOMCを前に方向感なくレンジで推移したが、6/16はFOMCを受けて米株が上昇したこと、オープン直後に29.640まで下落。しかし、台湾株が上げ幅を縮小させると29.73付近まで戻し、台湾中銀の政策発表を控え小動きとなった。6/17は前日に台湾中銀の利上げが0.125%に留まったため米台の金利差が意識され、29.77付近まで上昇したが、輸出企業のドル売りから上値は重かった。最終的に先週比0.5%ドル高台湾ドル安の29.720で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は1,078.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇し約24年ぶりの高値をつけた。週初6/13は134.40でオープン後、前週の米5月CPIを受けてドル円は135円台前半まで上昇し、直近高値を更新。しかし、黒田総裁の円安けん制発言や軟調な株式市場にリスクオフの円買いから一時133円台半ばまで下落。6/14は日銀の買入れオペ増額等を受けて134円台後半まで上昇。その後もFOMCを翌日に控え米長期金利が上昇するとドル円も上昇し、6/15には一時135.60をつけ直近高値をさらに更新。その後は臨時のECB理事会の開催との報道を受け134円台半ばに下落。FOMCでは0.75%の利上げを発表した一方、パウエル議長の会見の発言がハト派と捉えられ、米金利の低下につられ133円台半ばまで下落。6/16はFOMC後に米株が上昇したこともありドル円は134円台半ばまで上昇。しかし予想外にスイス中銀が0.50%を発表すると金融引き締めによる景気減速への警戒感からリスク回避で円が買われ、その後に発表された米経済指標が相次いで予想を下回ると、ドル円は一時131.49まで下落。6/17は金融引き締め期待のあった日銀の金融政策会合では緩和維持を決定し、ドル円は2円以上の乱高下をしたものの、134円台に戻した。黒田総裁の会見では緩和姿勢を維持する姿勢を示したことからドル円はじりじりと上昇し、カシュカリ・ミネアポリス連銀総裁のタカ派発言もあり135円台半ばまで戻した。その後は週末を控え、調整の動きとなったが、最終的に先週比0.4%ドル高円安の134.40で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.650-29.850
先週は米CPIの結果を受けて米金利が上昇し台湾ドルが売られたものの、輸出企業のドル売りが上値を押さえる形に。米台の利上げ幅の違いも意識されたものの影響は限定的であったため、今週は上値は重い展開が続くと見込む。

■ USD/JPY 予想レンジ：132.00-136.00
今週はイベント通過後でドル円は金融政策の違いから引き続き、ドルが買われやすいと見込むものの、景気後退への警戒感から株が売られており、リスクオフの場面では、急速な円の買い戻しには警戒したい。

今週の予定

6/20 (MON)	台湾5月輸出受注、米国休場
6/21 (TUE)	米5月中古住宅販売件数
6/22 (WED)	米6月製造業/サービス業PMI、パウエルFRB議長議会証言
6/23 (THU)	台湾5月鉱工業生産、台湾5月失業率、米Q1經常収支
6/24 (FRI)	日本5月CPI、米6月新築住宅販売件数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。